

曲がった尾の猫、骨折？

遺伝子による変形、生まれつき

問 猫を保護しましたが、尾が途中で曲がっています。小さいときに骨折したのでしょうか。

答 半世紀前、私が子どもの頃は曲がった短い尾の猫をよく見かけました。しかし、最近は何っきり減りましたね。こうした猫は、尾が変形したり、数が少なくなったりする遺伝子を持つ猫で、尾が生まれつき曲がっています。骨折したのではありません。

かつて日本では、短く曲がった尾は「カギしっぽ」などと呼ばれ、幸せを引っかけてくると珍重されました。反対に、長い尾はくねくね動くのがヘビのようで不気味だとか、長生きすると尾が分かれて妖怪の「猫また」になってしまうなどと考えられて嫌われていました。そんな訳で日本には曲がった尾の遺伝子が広がったのです。

しかし、昔々の日本には、まっすぐの尾の猫しかいなかったようです。有名な鳥獣

戯画（1200年頃）に描かれている猫の尾はどれも真っすぐですが、江戸時代後期の浮世絵には唐突に“尾曲がり猫”が出現します。その頃、尾曲がり猫は東南アジアに多くいて、そこを拠点に貿易をしていたオランダ人がネズミよけのために船に乗せて長崎に連れてきて、その後日本中に広がったとされます。

現在も長崎には尾曲がり猫が多いです。

ある調査では長崎に生息する猫のうち79%が尾曲がり猫で、他地域と比べて突出しているそうです（全国平均では41.7%、1990年）。日本の尾曲がり猫のルーツは長崎にありということで、「長崎尾まがりネコ学会」という集まりもありますよ。

（後藤 浩・県獣医師会員）

<月1回掲載します>

ペットに関する素朴な疑問や健康、飼い方についての質問をお寄せください。〒422-8670 静岡新聞社編集局「ペット質問箱」係へ。Eメール<seikatsuhoudou@shizuokaonline.com>や、右のQRコードで投稿フォームからも送信できます。全てにはお答えできず、直接回答もしかねますがご了承ください。

